

第 1 回 徳島県広域道路ネットワークに 関する検討委員会

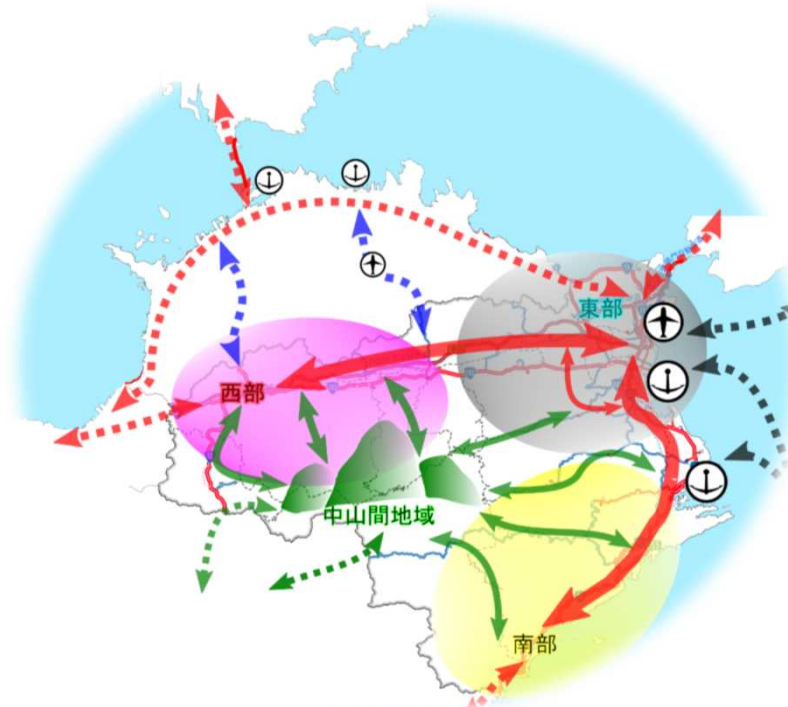
2. 徳島県新広域道路交通ビジョンについて 〈将来像と交通課題を考慮した広域道路ネットワークの機能〉

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

1. ビジョンの役割等

- 概ね20～30年間の中長期的な視点で検討。
- 地域の自立圏の形成、インバウンドや国際物流の増加への対応、災害リスク増大への対応や代替機能の強化等を見据える。
- 地域の将来像を踏まえた広域的な道路交通の今後の方向性を定め、広域道路ネットワーク計画等を策定する際の基本とする。

徳島県の将来像を実現する
広域道路ネットワークのイメージ



2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

2. ビジョンの内容

地域の将来像

- ・「とくしま行動計画」の長期ビジョン（2060年頃）、中期プラン編（2030年頃）や「四国圏広域地方計画」を基本

広域的な交通の課題と取組

- ・ミッシングリンクの解消や拠点間のアクセス強化
- ・国際物流やインバウンドの増加等のグローバル化の進行
- ・多軸型国土構造の形成や企業の国内回帰
- ・「災害時」のネットワークの脆弱性や緊急物資等の輸送状況
- ・ICTや自動運転等の技術革新

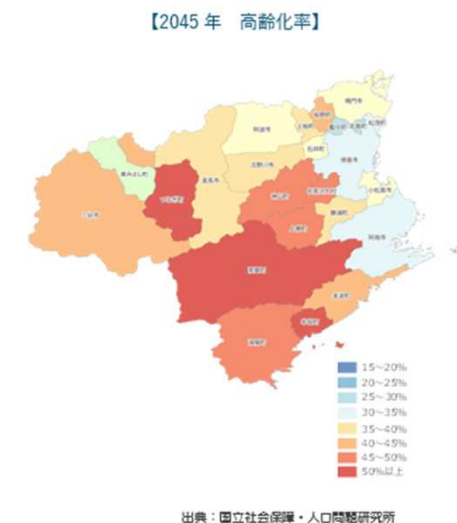
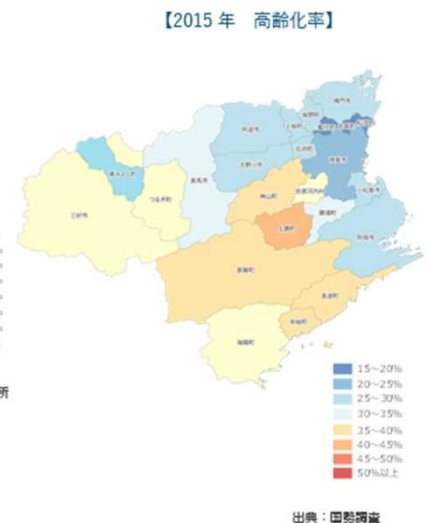
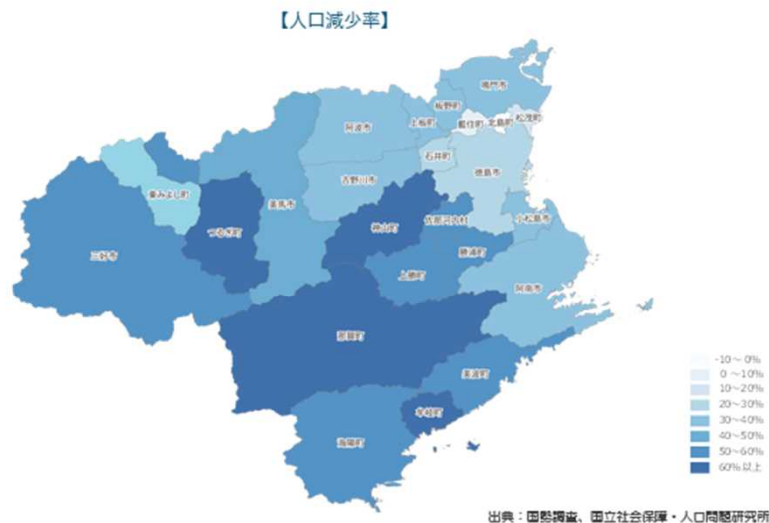
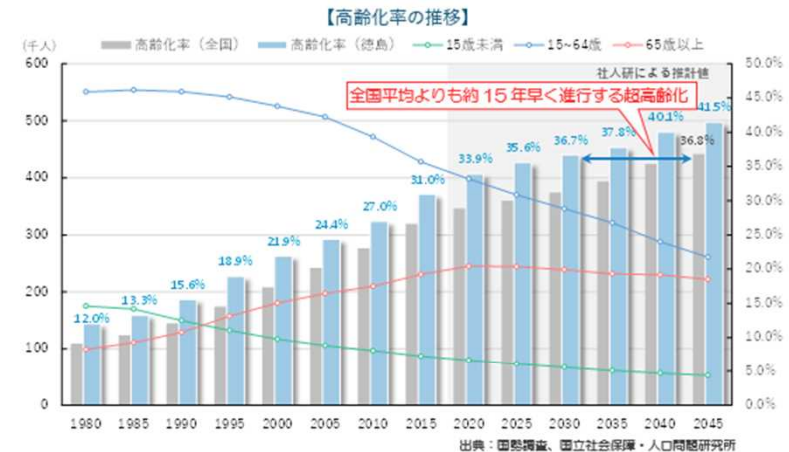
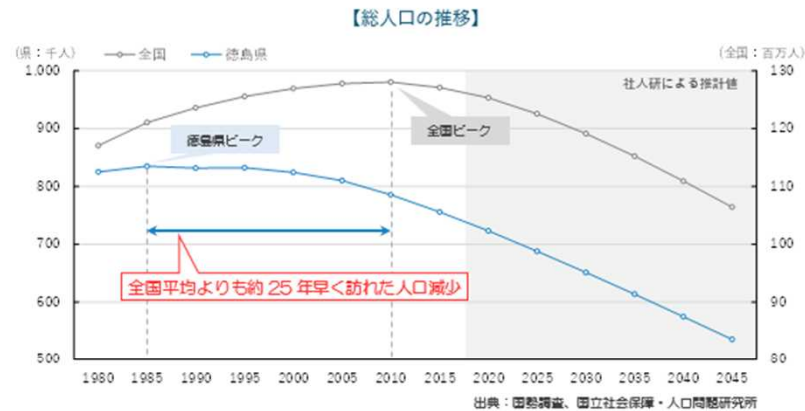
広域的な道路交通の基本方針

- ・広域道路ネットワーク
 - ・地域や拠点間連絡の方向性（早期整備や渋滞緩和、利便性の向上等強化する路線・道路の選定の方針）
 - ・災害時のネットワークの代替機能強化の方向性 等（4車線化やダブルネットワーク等強化する路線・道路の選定の方針）
- ・交通・防災拠点
 - ・地域の主要な交通拠点に関する、道路と各交通機関の連携強化の方向性
 - ・災害時の物資輸送や避難等の主要な防災拠点の機能強化等の方向性 等
- ・ICT交通マネジメント
 - ・ICT等を活用した道路の情報収集や活用の方向性
 - ・他の交通とのデータ連携などサービス向上の方向性
 - ・主要都市等における面的なマネジメントの方向性 等

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

3. 徳島県の現状

- ・全国平均よりも早い人口減少・高齢化



2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

3. 徳島県の現状

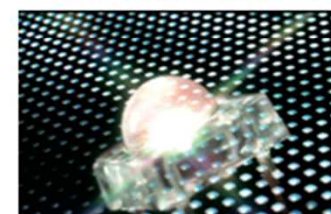
- 人口減少ながら所得と出荷額は全国平均以上の伸び

【人口、1人あたり所得、製造品出荷額等の変化】

	人口 (千人)		1人あたり県民所得 (万円)		製造品出荷額等 (百億円)	
徳島県	835 (1985年)	756 (2015年) 0.91倍	225 (1985年)	292 (2015年) 1.29倍	117 (1985年)	170 (2015年) 1.45倍
徳島市	258 (1985年)	259 (2015年) 1.00倍	253 (1985年)	324 (2015年) 1.28倍	35 (1985年)	49 (2015年) 1.40倍
鳴門市	64 (1985年)	59 (2015年) 0.92倍	245 (1985年)	290 (2015年) 1.18倍	14 (1985年)	29 (2015年) 2.04倍
小松島市	44 (1985年)	39 (2015年) 0.88倍	214 (1985年)	273 (2015年) 1.28倍	8 (1985年)	5 (2015年) 0.62倍
阿南市	82 (1985年)	73 (2015年) 0.89倍	211 (1985年)	295 (2015年) 1.40倍	16 (1985年)	30 (2015年) 1.84倍
吉野川市	49 (1985年)	41 (2015年) 0.84倍	207 (1985年)	253 (2015年) 1.22倍	4 (1985年)	3 (2015年) 0.80倍
阿波市	44 (1985年)	37 (2015年) 0.84倍	196 (1985年)	260 (2015年) 1.32倍	3 (1985年)	5 (2015年) 1.51倍
美馬市	41 (1985年)	31 (2015年) 0.75倍	204 (1985年)	261 (2015年) 1.28倍	9 (1985年)	5 (2015年) 0.55倍
三好市	45 (1985年)	27 (2015年) 0.59倍	193 (1985年)	250 (2015年) 1.30倍	4 (1985年)	3 (2015年) 0.60倍
四国全体	4,227 (1985年)	3,846 (2015年) 0.91倍	227 (1985年)	285 (2015年) 1.26倍	691 (1985年)	884 (2015年) 1.28倍
全国	121,049 (1985年)	127,095 (2015年) 1.05倍	261 (1985年)	329 (2015年) 1.26倍	26,532 (1985年)	31,313 (2015年) 1.18倍

出典：人口-国勢調査、1人あたり県民所得-総務省「市町村別経済状況等の調査」（調査対象市町村/前年度調査数で算出）、
製造品出荷額等-1985年は経済産業省「工業統計調査」、2015年は経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」
※1人あたり県民所得の合計額は、四国の平均値。四捨五入を行っているため合計が一致しない場合がある。

【徳島県 発光ダイオード全国シェア】



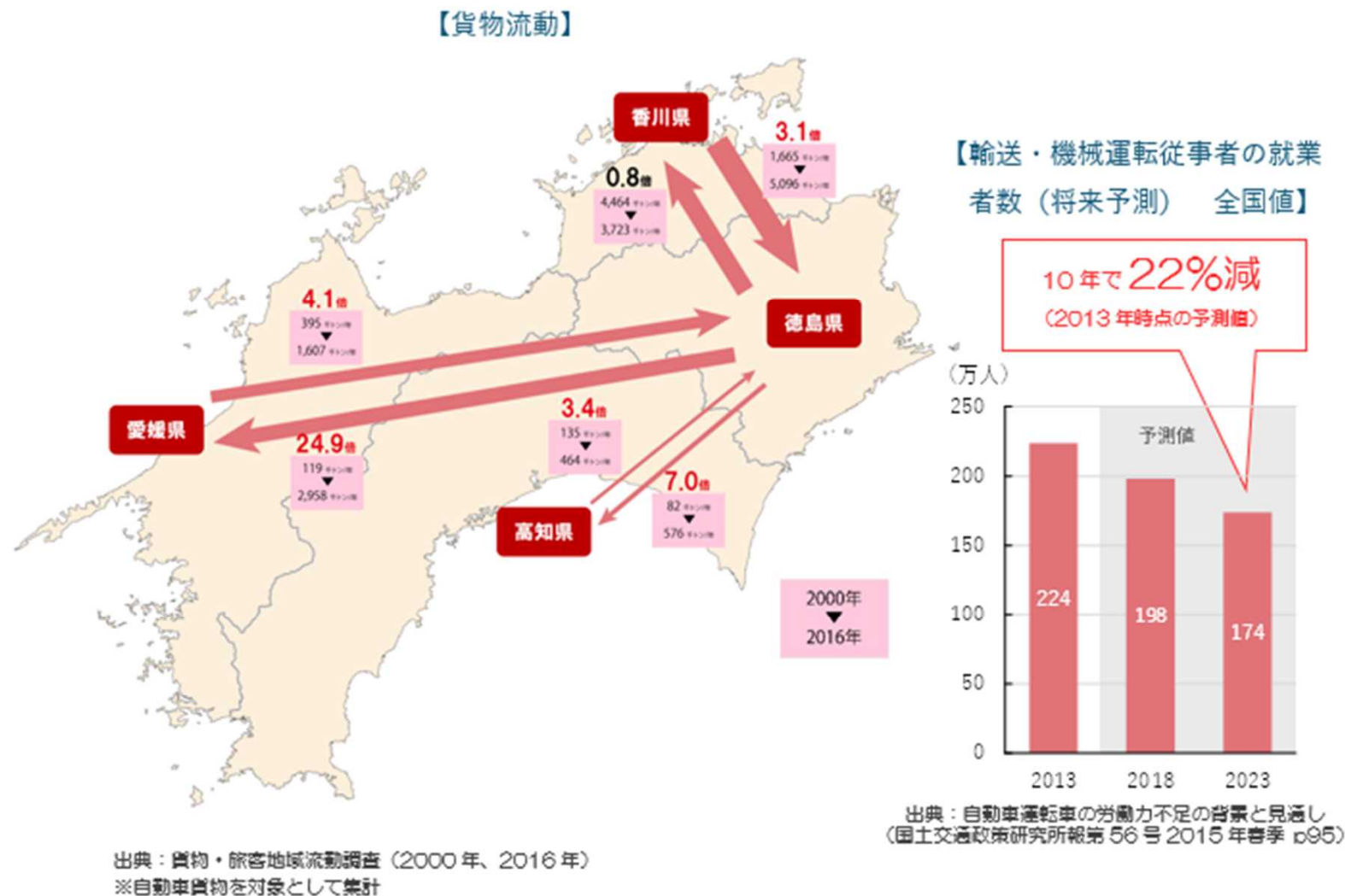
【徳島県産春夏にんじんの全国シェア】



2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

3. 徳島県の現状

- ・増加する物流貨物



2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

3. 徳島県の現状

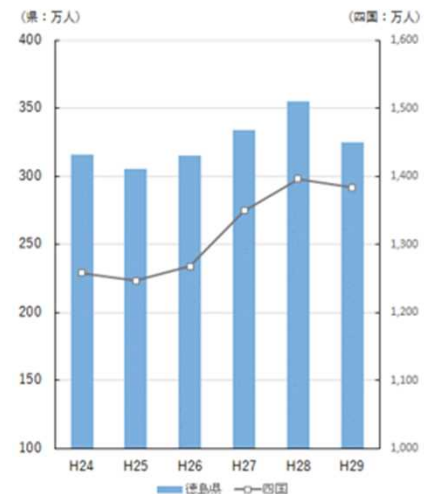
- ・観光資源を活かし、観光客数は増加
- ・増える外国人観光客

【徳島県の主要な観光施設】



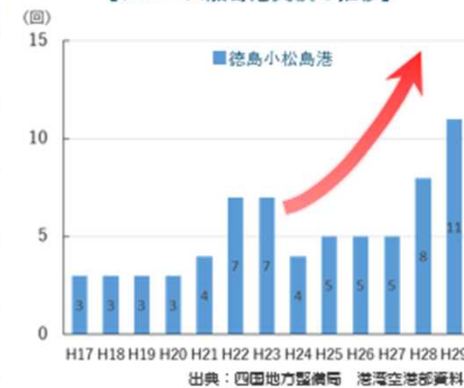
※代表的な観光施設を表示
出典：四国運輸局 平成29年度四国の主要観光地入込状況について

【徳島県の主要観光地の入込客数の推移】

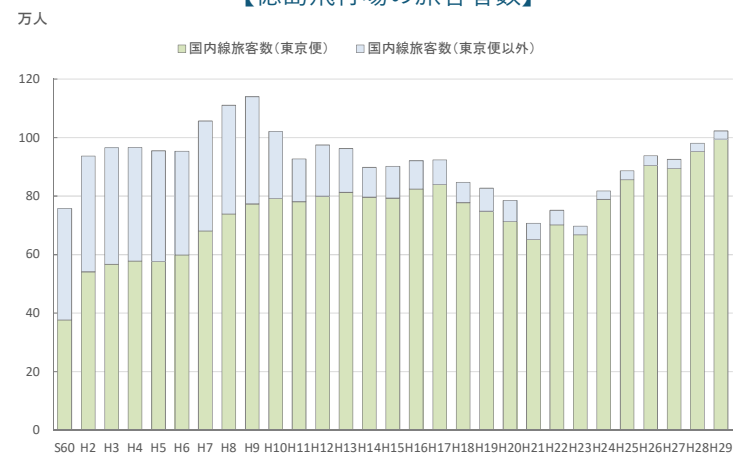


出典：四国運輸局

【クルーズ船寄港実績の推移】



【徳島飛行場の旅客者数】



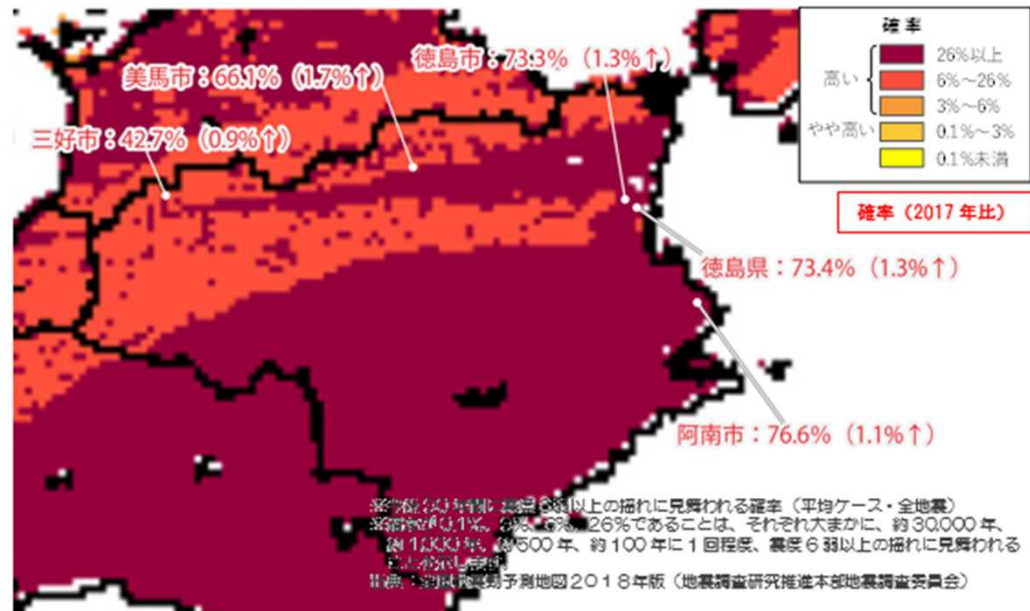
出典：四国地方整備局 港湾空港部資料

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

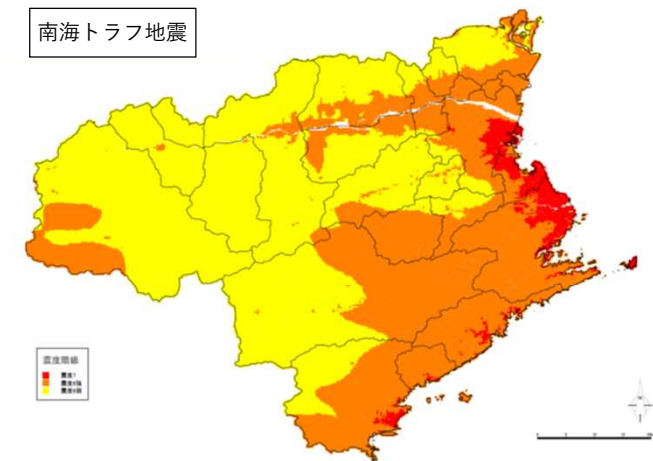
3. 徳島県の現状

- ・ 今後30年間に高い確率で襲来する巨大地震

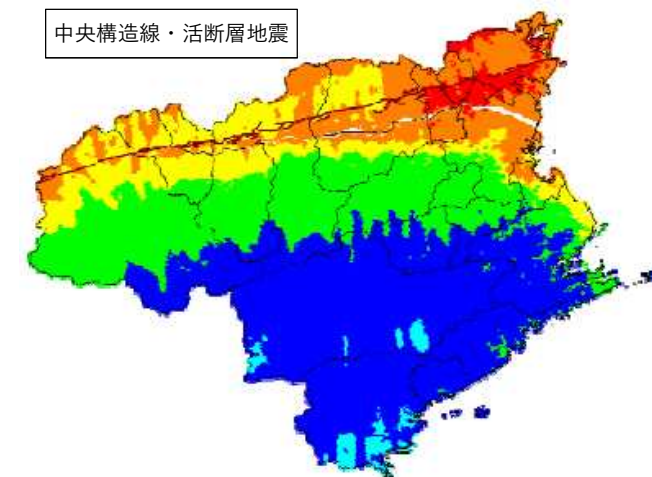
【地震動予測 2018 年：確率分布】



【震度分布】



出典：徳島県南海トラフ巨大地震被害想定



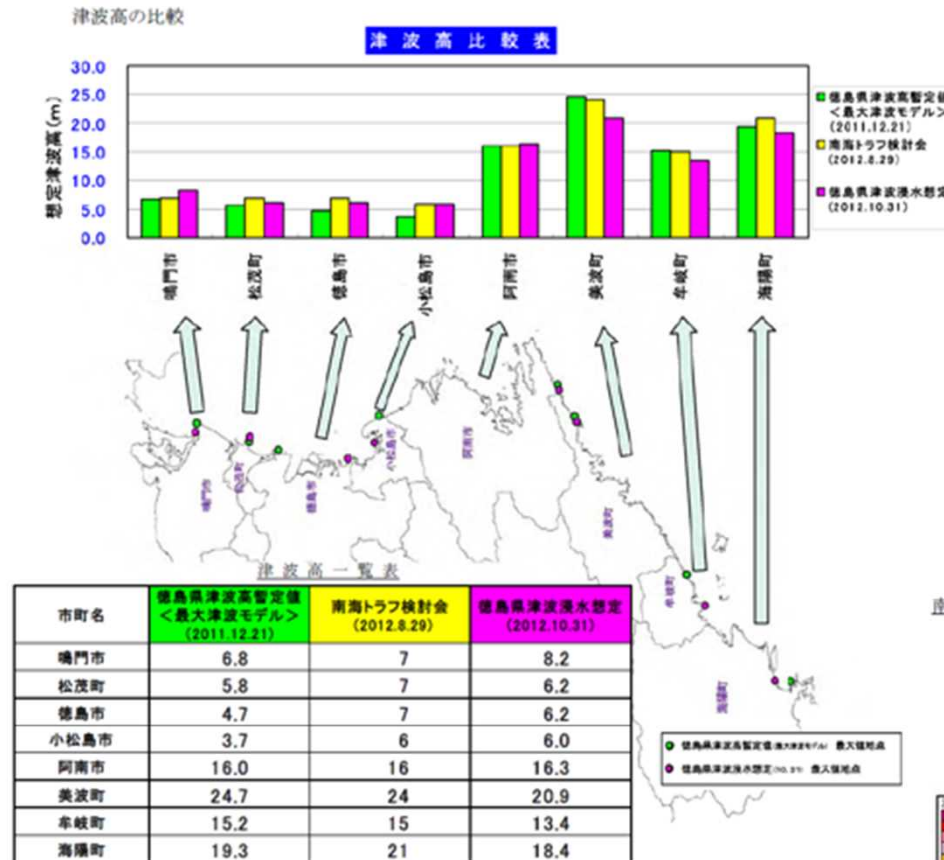
出典：徳島県中央構造線・活断層地震被害想定
※5ケースの地震を想定し震度分布を重ねた最大の震度

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

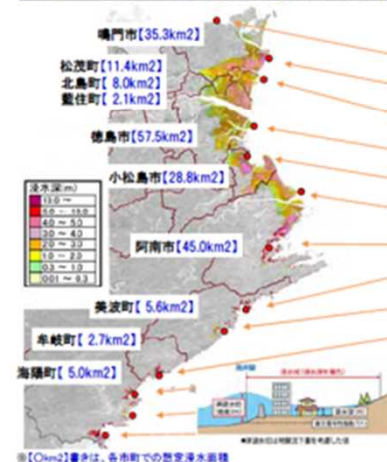
3. 徳島県の現状

- ・ 巨大な津波襲来の危険性が高い徳島県南地域

【南海トラフ巨大地震における想定津波高及び津波影響開始時間】



南海トラフ地震による津波浸水想定【徳島県想定】



箇所	津波影響開始時間(分)	最大波による津波水位(m)	最大波到達時間(分)
鳴門市 栗田漁港	61	2.7	72 (第1波)
鳴門市 里浦海岸	19	6.0	64 (第1波)
松茂町 新滑走路東端	18	5.5	61 (第1波)
徳島市 マリンピア東端	25	5.0	53 (第1波)
小松島市 本港奥	27	5.5	201 (第6波)
阿南市 中島港口	23	5.1	139 (第3波)
阿南市 福井川河口	19	8.2	97 (第2波)
美波町 由岐漁港口	12	12.3	29 (第2波)
美波町 日和佐港入口	10	9.8	28 (第2波)
牟岐町 牟岐漁港口	11	9.8	50 (第2波)
海陽町 浅川湾中央部	11	10.5	52 (第2波)
海陽町 萩浦漁港口	4	8.1	29 (第2波)
海陽町 穴喰漁港中央部	6	15.8	44 (第3波)

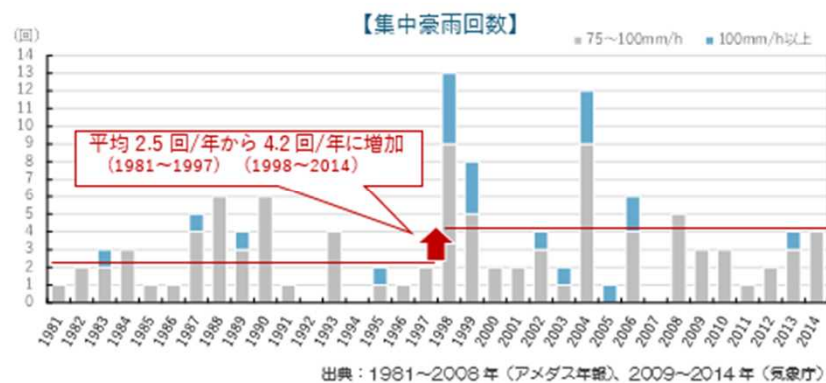
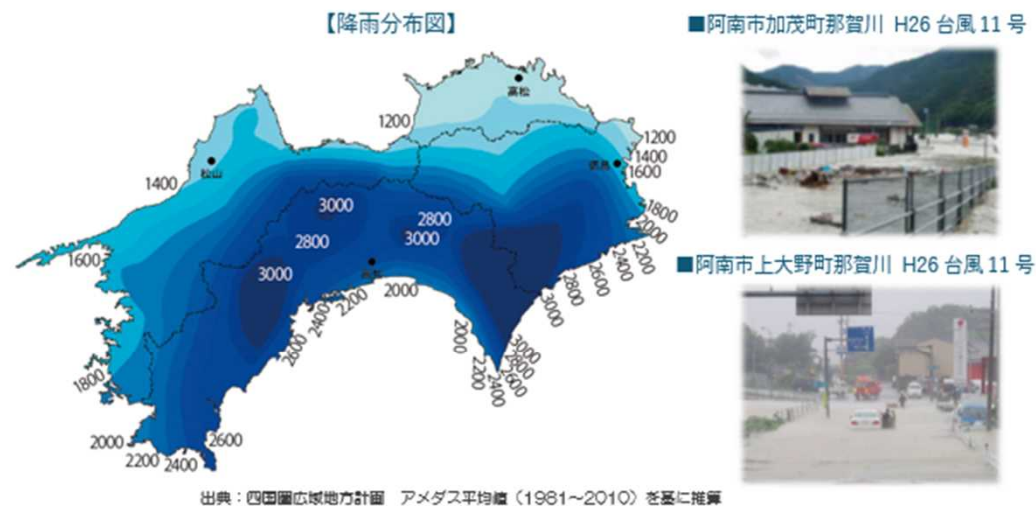
※津波影響開始時間は、±200m以上の津波影響が発生した時間。

＜出典＞HQ4.10.31 徳島県津波高想定より

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

3. 徳島県の現状

- ・局地化、集中化する豪雨
- ・冬季の雪害



国道192号 立ち往生する大型車両

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

4. 徳島県の将来像

- ・四国圏の将来像（四国圏広域地方計画 H28.3）

四国圏の発展に向けた目標

- ① 南海トラフ地震への対応力の強化等、安全で安心して暮らせる四国
- ② 若者が増え、女性・高齢者が生き生きと活躍する四国
- ③ 地域に根ざした産業が集積し、競争力を発揮する四国
- ④ 中山間地域・半島部・島嶼部等や都市間が補完あい活力あふれる四国
- ⑤ 歴史・文化・風土を活かした個性ある地域づくりを進め、人を引きつける四国



出典：国交省HPより

目標の実現に向けた取組（広域道路の役割に関する主な取組を抜粋）

- ① 防災上重要な拠点を結ぶ主要幹線道路の整備
- ② コンパクト+ネットワークの形成と高速道路ネットワークによる都市間の対流
- ③ 地域生活や産業活動に必要な物資等の安定かつ低廉な輸送の確保
- ④ 行政区域を越えた連携を強化するため、連携中枢都市圏や定住自立圏の形成
- ⑤ 圏域内や近隣の中国圏・近畿圏・九州圏との連携・交流促進

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

4. 徳島県の将来像

- ・徳島県が目指す将来像（「未知への挑戦」徳島行動計画 R2. 3）

将来ビジョン（2060年頃の姿）

（1）未知なる社会へ挑戦「かがやく とくしま」

一人ひとりが夢や希望を持ち、その実現に向かって、誰もが輝くことのできる徳島

- ・住み慣れた地域で元気に暮らす
- ・地域資源をベースに多様な人材や異文化との連携

（2）未知なる課題を超越「しなやか とくしま」

いかなる困難もしなやかに乗り越え強靱で、経済や環境とも調和した持続可能な社会・徳島

- ・速やかな復旧復興
- ・「事前復興」を基本とする県土強靱化
- ・自動運転によるモビリティサービス
- ・増え続けるインバウンド客

（3）未知なる魅力を創造「ときめく とくしま」

未来を切り拓くひとが育ち・集い・輝くことで、ひとを惹きつける新たな価値や魅力を創造する徳島

- ・観光資源が地域の魅力として輝く
- ・世界中からの旅行者
- ・「8の字ネットワーク」がつながる
- ・国際定期便の運行やクルーズ船の寄港
- ・自動運転やシェア型モビリティの運行

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

5. 徳島県の交通課題

- ・ ミッシングリンクと津波浸水区間の存在

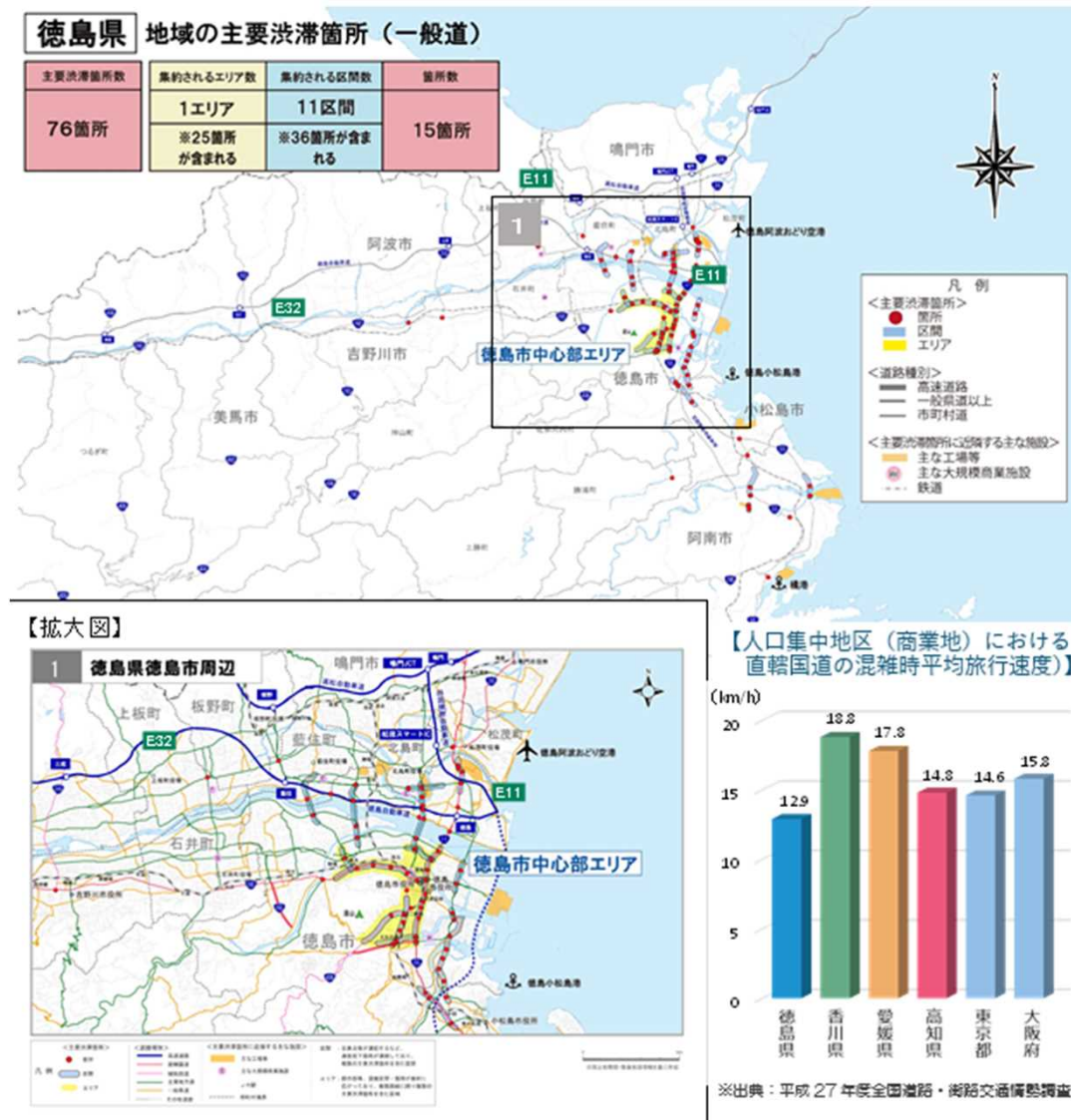


津波浸水想定箇所：2012年10月31日「徳島県津波浸水想定公表について」から部分抽出
最大津波高：2012年8月29日 内閣府「南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等（第二次報告）及び被害想定（第一次報告）について」から部分抽出

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

5. 徳島県の交通課題

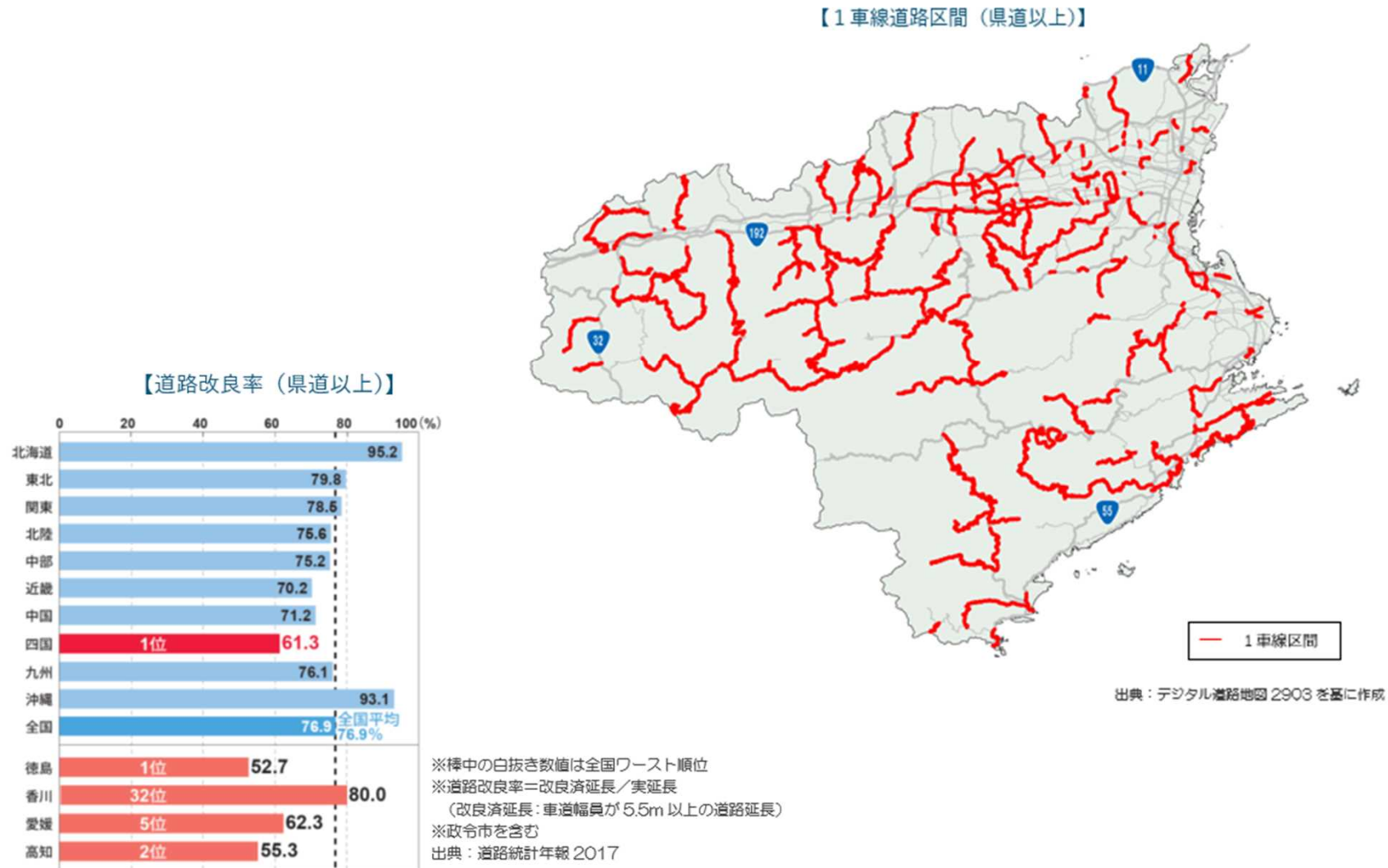
- ・大都市と変わらない渋滞区間の存在



2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

5. 徳島県の交通課題

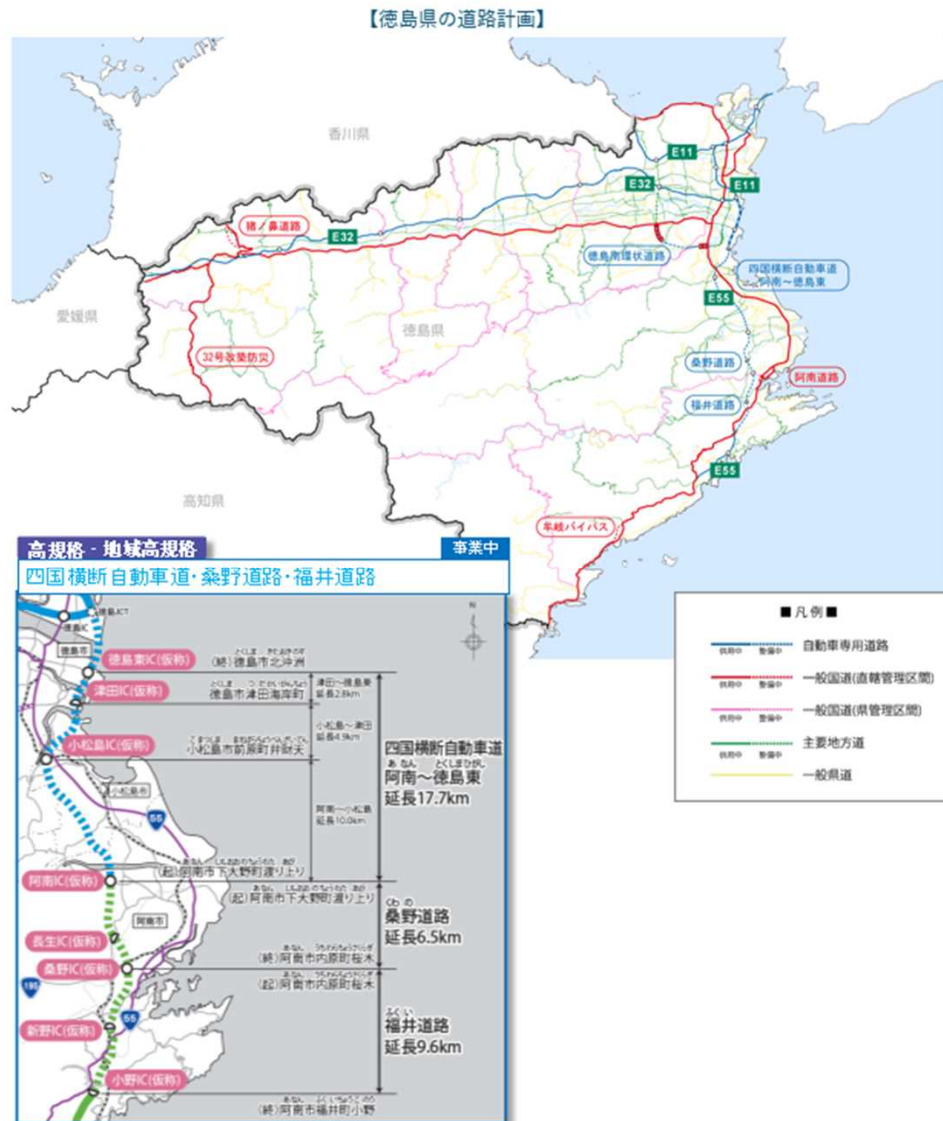
- ・全国より低い道路改良率



2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

6. 徳島県の既存の取組

- ・「命の道」、四国8の字ネットワーク等の道路整備の推進



2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

6. 徳島県の既存の取組

・広域観光周遊ルート形成促進事業

【「せとうち・海の道」の概要】

名称・コンセプト ルート名称： せとうち・海の道 The Inland Sea, SETOUCHI ～新たな西日本発見の旅～ Discover the Hidden Charms of West Japan コンセプト： 世界に誇る「瀬戸内」の景色と「瀬戸内」でのみ味わえる貴重体験「瀬戸内」に溢れる日本の「匠」と「自然風景」 ゴールデンルートの延長線上にある日本随一の確固たる幹線ルート 主な対象市場・ターゲット：欧米豪、台湾、タイ等の東南アジア等 実施主体 - 名称：（一社）せとうち観光推進機構 - 会長：佐々木 隆之（西日本旅客鉄道株式会社 取締役相談役） - 事務局：（一社）せとうち観光推進機構 （〒730-0011 広島市中区基町10-3 広島県自治会館2F） - 構成員：兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県及び経済団体1団体、民間企業12社	目標設定・成果把握 - 目標の設定：2020年までに瀬戸内7県の外国人延泊旅行者数600万人泊（2015年実績の約2.3倍） - 成果把握の方法：観光庁宿泊旅行統計調査ほか 事業の概要 - 事業計画策定・マーケティング - 海外向け戦略策定、実施管理等（ビッグデータ等も活用） - 受入環境整備・交通アクセスの円滑化 - 本ルート上におけるシームレスなWi-Fi環境の整備等 - 滞在コンテンツの充実 - 着地型商品予約プラットフォーム構築や「S-X」商品等の発掘等（滞在型小型船「S-X」、7-11「S-X」、海のななつ星、水上飛行機） - 対象市場に向けた情報発信・プロモーション - 開空～福岡の瀬戸内周遊バス等の造成、これを使った周遊の仕方の情報発信、宿泊とのセット商品造成・販売（「西遊紀行」等）
---	---

対象地域の地図

出典：国土交通省

【「スピリチュアルな島～四国遍路～」の概要】

名称・コンセプト （主題）スピリチュアルな島～四国遍路～ Spiritual Island ~SHIKOKU HENRO~ （副題）1200年の歴史と文化に触れ合う旅 Touch the history and culture for over 1200 years （コンセプト）・四国遍路とお接待の心の文化 ・日本の原風景が残る未知なる観光地 ・1200年の歴史や文化に触れる旅 実施主体 名称：四国ツーリズム創造機構 会長：松田 清宏（四国旅客鉄道株式会社 相談役） 事務局：四国ツーリズム創造機構 事業推進本部 構成員：徳島県、香川県、愛媛県、高知県、徳島県、香川県、四国、四国経済連合会、四国電力、四国旅客鉄道、全日本空輸、日本航空、日本旅行など 目標設定・成果把握 目標：2020年までに四国4県外国人延泊旅行者数を125万人泊へ 成果把握：観光庁の宿泊旅行統計調査、ALL SHIKOKU Rail Passの発売状況、主要観光施設の入込数 事業の概要 広域で取り組む事業 - 事業計画策定・マーケティング - ブーム【量】でなく、持続性【質】を重視し、個人旅行者（FIT）を中心にしたプロモーション計画を策定 - 受入環境整備・交通アクセスの円滑化 - トイレの設置場所の情報提供など - 滞在コンテンツの充実 - 着地型商品の開発（お寺・観光地巡り、歩き道楽体験など） - 対象市場に向けた情報発信・プロモーション - 四国に在住する外国人の目線で魅力や観光資源を取材し、SNSを活用して情報発信する（お遍路・お祭りなど）	対象地域の地図
---	-----------------------

出典：国土交通省

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

6. 徳島県の既存の取組

・道の駅の防災拠点化

さとみまみま

道の駅「みまの里」(徳島県美馬市美馬町)

地域経済観光福祉防災文化

○国指定史跡「郡里廃寺跡」や複数の寺が建ち並ぶ「寺町」が近接する歴史・文化スポット

○「阿波尾鶏」や「地域野菜」など、地域ブランドとなる食材を加えた飲食品の提供を行うなど地産地消の拠点

○設置者：美馬市

○路線名：主要地方道鳴門池田線

○整備手法：一体型

○全体面積：約9,606m²





出典：国土地理院ウェブサイト(<http://www.gsi.go.jp/>)



<地域の課題>

【情報】

■課題 来訪者に対し道路・防災・地域(観光等)の情報提供ができていない。

■要因 情報受発信のワンストップ化が図られていない。

【観光】

■課題 国指定史跡や寺町など数多くの歴史・文化スポットはあり、美馬IC近くにあるが観光客等の来訪者が少ない。

■要因 駐車場を備えた受入れ拠点施設が無く大型観光客等の受入れ環境が整っていない。



寺町



安楽寺能舞台



郡里廃寺跡

《具体的な整備メニュー・取組み》

【地産地消の促進】

- 産地直売所へ農林水産物の集出荷システム等を活用
- 地域食材を使った食事処設置によるブランド化
- 地域野菜等を用いた加工施設整備



地産地消の促進

【地域防災の強化】

- 地域防災の強化、自主防災組織の活動拠点化

【ボランティアガイドの窓口化】

- 観光案内窓口の設置(ボランティアガイドの活用)



体験機会の提供



ボランティアの活用

【体験交流機会の提供】

- イベント等による交流
- 体験機会の提供

徳島県広域道路ネットワークに関する検討委員会

17

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

6. 徳島県の既存の取組

- ・自動運転サービス実証実験

【自動運転サービスの実証実験 概要】



2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

7. 徳島県の広域的な道路交通の基本方針

- ・広域ネットワークの基本方針に基づく事例

【事例】徳島南環状道路の整備

平成 27 年 2 月 28 日に一般国道 192 号徳島南環状道路（上八万 IC～徳島市八万町橋北）が開通し、並行する県道鮎喰新浜線の法花大橋北詰交差点の渋滞が約 9 割削減しました。



出典：徳島河川国道事務所記者発表資料

【事例】外国人観光客にもわかりやすい道路案内標識へ

道路案内標識を外国人にとってわかりやすくするため、鳴門市内の先行整備エリアを対象に、平成 26 年 2 月より案内表記の改善を行った。



出典：四国地方製菓会 記者発表資料

2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

7. 徳島県の広域的な道路交通の基本方針

- ・ 交通、防災拠点の基本方針に基づく事例

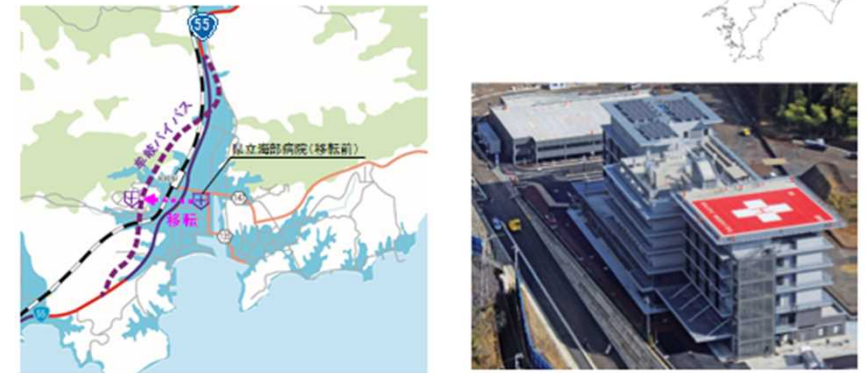
【事例】津田インター線の整備

四国横断自動車道の整備に合わせて、津田インター線の整備を進めています。



【事例】徳島県立海部病院（徳島県牟岐町）が高台移転

津波の浸水想定地域にあった徳島県立海部病院は、平成 29 年 5 月 8 日に高台への移転を行いました。



2 徳島県新広域道路交通ビジョンについて

7. 徳島県の広域的な道路交通の基本方針

- ・ ICT交通マネジメントの基本方針に基づく事例

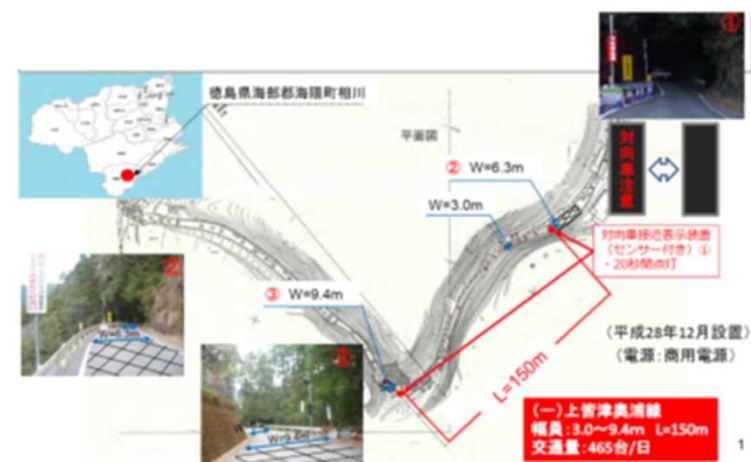
【事例】IoT 及び AI を活用した路面性状調査

IoT 及び AI を活用した路面性状調査の実証実験を平成 30 年度に行い、課題等を整理したうえで、本格導入を開始しました。



【事例】対向車接近表示システム

徳島県では、交通量が 1,000 台/日程度の幅員狭小区間に対向車接近表示システムの設置を検討しています。



出典：中山間道路走行支援システム（仮称）資料集、中山間道路走行支援システム検討会